

パーカーを着た殺人鬼

レーキ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

彼は己の意志と亡き師匠の言葉を胸に、ナイフを手に取り犯罪者を刺し殺す。

自分はパーカーを着た殺人鬼。

処女作です。駄文で短いですが、よろしくお願いします。投稿は不定期です。ごめんなさい

目次

過去と今と殺人鬼

連続刺殺事件資料 Vol. 1

特徴 男性 パーカーを着ての犯行 使用凶器はナイフのみ
その他 全国で約1000人を殺害した模様

了

いつものように化粧をする、今日はドレスを着て彼とディナー。

普通の人なら楽しみや嬉しいなどの感情を抱くはずだ、ところが彼女は違う、これまでたくさん男性と付き合い、男性は謎の死を遂げている。どの男性も多額の生命保険をかけて。そしていま彼女が抱いている感情は、

どうやって金をとって殺そうかしら。

彼女は黒い感情を隠すように真っ白なドレスを着て【彼】のもとに向かった。見えない死が後を追いかけた。

1

ふう、とため息をつく。

黒のパーカーを羽織る青年がいた。これから少し用事を済ませに行くための準備をしている。用事とは、女一名の殺害で、ナイフ一本のみこれが彼の装備だが実際ナイフなどなくとも息の根は止められる。

準備ができ彼は家から出た。

銀色の刃のみが淡く光っていた。

つい最近からこの国で刺殺体が増え始めていた。

さてどうやって巻き上げようかしら。

そう彼女は考えながら大通りを歩いていたら不意にどこからか呼

び止められた。振り返ってみても誰もいない、空耳かなと前を向いてみると…

「水野靈華、三十二歳、これまで七人の男性と結婚、そしてみな殺害され遺産はすべてあなたに、警察に疑われるも証拠不十分で釈放。」

「まったく、金に目がない悪魔が、何人殺せば気が済むんだ？」

詩を読み上げるような口調で話す青年は、まるで人形の様な生のない奇妙な雰囲気醸し出していた。顔はパーカーと街灯の光が逆光となつて見えず、その場に立っていた。

靈華は微笑みながらも内心焦っていた。完璧なまでの犯行が正面の青年に暴かれようとしていた。

「あらあら、そのようなこと物騒なこと私にはできませんわ、第一私は動機がありませんもの急いでおりますのそれでは失礼いたしますわ。」

その場を早足で立ち去ろうとするが、すれ違う瞬間に一枚の写真が見えた。それは彼女がオトカを殺した瞬間の写真だった。

瞬間彼女は青年から後ろに飛びのき、距離をとった。最初からばれていた私の計画がこんな奴に邪魔されてたまるか。こうなったら…殺さない、殺さなくちゃ。隠していた暗殺用の小型ナイフとトンファーを取り出し構えた。彼女にはもう先ほどの優雅な態度は影を潜め殺意にあふれていた。

「やっと本性を現したね、やっぱり物騒なことしているじゃないか。」片足を引き、だらんと脱力した構えをとる。慣れたことだった。いつもこんなことばかりしていたし、そう教えられていた。

これから鮮血が舞う、二人とも理解していた、それほどの数を踏んできたのだ。両方とも恐れや躊躇いはなかった。

先に動いたのは青年だった。一步で間合いを詰め攻撃に移る、が即座に靈華が反応し、トンファーで防ぎナイフで脇を狙ってきた。一般

人ならそこで終わり、しかし相手が悪かった。指で鳩尾を突き、前のめりになった瞬間に頭に膝蹴りが入る。首が空き体制が崩れた。そこで霊華が持つていたナイフを外し自分のナイフで手首と肺を刺した。呼吸ができず倒れこんだのを確認して淡々と告げた。

「死ぬ前に教えてやる。霊輝が名前、いや、こつちのほうが分かりやすいか、

フード・リツパー

それが名前だよ。」

そう言つて踵を返して闇に紛れた。

ジャック・ザ・リツパーまたは、切り裂きジャックを知っているだろうか？

知っている者は多いだろう人をバラバラに切り刻んだ人間だ。彼はたくさん命を奪っていた。

それが悪魔と等しい行動であつたため自ら死ぬこともできなくなった。時代が流れてこの世界に科学と魔法、正確には、核エネルギーが廃止され、それに代わるエネルギーとなつたのが、

20k+z

である。これは自然現象すべてを人工的にエネルギーとして変換し圧縮させたものである。よつてさまざまな現象を操ることができるようになった。

そんな時代にジャックは一人の捨て子を見つけ気まぐれに保護し育てた。育つていくその子を見ているうちにだんだんとジャックは変わつていった。それが次第に人間と戻つていった。しかし肉体は崩壊し始め最後にその子にこう言つて死んだ。

「私の救世主、霊輝、いやフードリツパー。いいかい、絶対に自分の信念のためにその刃を抜くんだ。わかつたね。」

フードリツパーは自分の意志で犯罪者を殺している。切り裂きジャックのような人間を作らないように。